

令和元年度 病虫害発生予察 特殊報 第2号

病虫害名： ネギハモグリバエ別系統 *Liriomyza chinensis* Kato

対象： ネギ

1. 病虫害情報の内容

ネギハモグリバエ別系統の発生と被害を、東京都多摩地域のネギにおいて確認した。

2. 発生経過

- 令和元年8月に東京都多摩地域において、ネギの葉がハモグリバエ類により著しく摂食され、白化する症状が確認された(図1)。この被害状況は従来のネギハモグリバエと異なり、他県で発生が認められているネギハモグリバエ別系統に類似していたため、採取した幼虫を羽化させ、農業・食品技術総合研究機構 東北農業研究センターに遺伝子解析を依頼した。その結果、従来の系統(以下、A系統)とは異なる別系統(以下、B系統)と同定された。
- B系統の発生は、平成28年頃に京都府で確認され、以降、茨城県、富山県、千葉県、長野県、埼玉県、新潟県、栃木県、三重県、滋賀県、大阪府及び愛知県の2府10県で確認されている。

3. 形態

A系統とB系統の形態による識別は困難である。両系統とも成虫の体長は約2mm、胸部と腹部は黒く、その他の部分は淡黄色である(図2)。幼虫はうじ虫状で、成長すると体長約4mmに達し、蛹は体長約3mmの褐色、俵状である。

4. 生態

両系統とも成虫は葉の組織内に産卵し、孵化した幼虫は葉の内部に潜り込んで葉肉を食害する。幼虫は成長すると葉から脱出し、地表または土中で蛹になる。

5. 被害

B系統はA系統に比べて1葉あたりの幼虫数が多く、1葉に複数の幼虫が内部に潜り込んで集中的に葉肉を食害する。B系統の初期の食害痕は、A系統と同様、不規則な白線状であるが、進展すると近接した食害痕同士が癒合し、葉が白化したようになる(図3)。

6. 防除対策

- 両系統の形態での識別が困難なため、発生を認めたら、系統に関わらずネギハモグリバエまたはハモグリバエ類に適用のある薬剤により、発生初期の防除を徹底する。
- 被害葉及び収穫残さは本虫の発生源となるので、ほ場に放置せず、1か所にまとめて積み上げ、ビニール等で覆い、裾部分を土で埋める等適切に処分する。
- 不明な点があれば病虫害防除所や普及センターに連絡する。

7. 参考文献

特殊報:京都府、茨城県、富山県、千葉県、長野県、埼玉県、新潟県、栃木県、三重県、滋賀県、大阪府及び愛知県



図1 被害ほ場



図2 ネギハモグリバエ成虫



図3 白化した被害葉